



学校法人 つくば開成学園

理事長 糸賀 修氏

■企業概要

本社：茨城県牛久市柏田3315-10

設立：平成15年5月

従業員：269名

事業内容：通信制高校の運営

牛久市を拠点として全国各地に学校や学習拠点を持つ学校法人つくば開成学園は、2003年、糸賀理事長が49歳の時に開校した「広域通信制つくば開成高等学校」がスタートになります。

同校の学習スタイルは個別対応が基本で、生徒一人ひとりの興味・関心を発見して伸ばすために多彩な講座が開講されています。

それは、「16歳前後で経験した『たった一度の失敗』を引きずるのではなく、優しく寄り添い、一度は失いかけた生徒の『生きる力』を復活させたい」という同氏の熱い思いからきています。

常に「アイディア」と「実行力」で業界を牽引し続ける同氏の想いを取材しました。

(インタビュー日：平成30年1月23日)
[聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一]

糸賀理事長のご経歴と学校創設の経緯などについてお聞かせください。

■ 県内外の私立高校の立ち上げに携わる

私はつくば市(旧谷田部町島名)の出身です。地元高校を卒業後、都内にある大学の理工学部に進み、4年間、学生ライフを楽しみました。

卒業後、特に定職には就かず、東京でアルバイトをしながら過ごしました。長男だったこともあり、28歳で茨城へ戻って都市計画関連事業を進

める団体に就職しました。

1983年、土浦市に「常総学院高等学校」が創設されました。私は大学卒業後に数学の教員免許を取得していたことがきっかけで、同校開設2年目に数学教師として32歳の時に就職しました。

常総学院では数学を教える傍ら、生徒募集業務を担当したり、「数学研究会」や「特進コース」の立ち上げに携わりながら8年間を過ごしました。

その後、多くの方々との出会いやご支援、常総学院での経験を活かし、つくば市の「つくば秀英高等学校」をはじめ、福島県いわき市の「いわき秀英高等学校」、茨城県内初の私立通信制高校である日立市の「翔洋学園高等学校」の立ち上げに尽力していきました。

■ 「能力のある生徒たちを救いたい」

進学校といわれる高校に通うのは、中学校の成績がオール5であったり、リーダーシップに長けるなど「優等生」と呼ばれる生徒たちです。しかし、進学校は各地の成績優秀者が集まるため、全体の1/5の生徒が授業についていけないなどの理由で“学習意欲の低下”に陥ってしまいます。

私は、本来の力で臨めば高いレベルの大学を狙えるにも関わらず、不本意な結果に終わってしまう生徒を目の当たりにしてきました。そして「このような生徒たちを救いたい、もっと丁寧に寄り添いたい」と考えるようになりました。

■「自分の理想とする進学校を作りたい」

私は複数の高校の立ち上げや運営に携わった経験から「いつか、自分で進学校を作りたい」と考えるようになりました。

そして、構想など約10年間をかけ、多くの方々のご支援により、遂に2003年「つくば開成高等学校」を設立することができました。

建学の精神は「だれもが、どんな状況・環境にあっても学べる学校をつくること」「生徒一人ひとりが自分のライフスタイルを大切にし、好きなことに全力で取り組むことによって各人の可能性を開花させること」と決めました。

生徒の自己肯定感を高めながら、生徒一人ひとりの個性や感情、意思を見極め、能力や興味、生徒の置かれた状況に合わせて個別対応教育を行うことで、卒業後、社会に貢献できる人材として送り出したいと考えています。

御校の特徴についてお聞かせください。

■時代のニーズを読み「通信制高校」を開校

高校の課程は全日制、定時制、通信制がありますが、本校は広域通信制高校として開校しました。通信制を選んだ理由は、少子化の時代においても通信制を選ぶ生徒数は減らず、入学者をある一定数見込むことができると考えたからです。

通信制高校の卒業資格は、3年間で74以上の単位を修得し、特別活動に30時間以上参加することで取得が可能です。単位認定はスクーリング、レポート、認定試験の可否により決まります。



牛久本校で学ぶ学生の様子（提供：つくば開成高等学校）

■全国5つの学校で、約2,600人が学ぶ

現在、本法人には牛久市のほか、長野県や京都府、福岡県、沖縄県に認可された学校があり、全国で5校を運営しております。各校は5人の校長のアイデアや地域性を活かして運営しており、それぞれの特性があります。

京都校と福岡校以外の学校には、生徒が通いやすく、学びやすい学習センターを設けています。学習センターは全国に22ヶ所あり、生徒の学習指導や生活指導、保護者との面談、進路相談など本校と変わらない機能を備えています。

また、学校や学習センターをコンピューター管理システムで一括管理しています。そのため、全国に約2,600人いる生徒の登校状況や学習状況などを一度に把握することができ、さらに証明書発行も簡単にできるためスムーズな教育活動を展開することができます。

■生徒の能力を最大限に引き出す

本校は個別対応教育が基本であり、生徒一人ひとりの「興味・関心」を発見するため、多彩な講座を多数用意しています。

生徒は自分の希望に応じて、登校日数や授業内容、個別・小集団などの学習スタイルを自分で選択することができます。

進学就職サポートも手厚く、教職員が生徒一人ひとりとゆっくり対話しながら希望する進路を見つけ、その実現に向けて応援していきます。

教職員は女性が多く、半数以上は子育て経験がある方々です。女性の教職員は悩みを抱える生徒を優しく受け入れてくれる雰囲気があり、生徒も色々なことを相談しているようです。

また、女性を多く採用するメリットとして「セクハラ防止」という観点もあります。例えば、男性教員が女子生徒に「頑張っているね」と肩をポンッと叩くだけで、セクハラに該当してしまうこともあるからです。

生徒だけでなく、保護者や来校者、教職員も安心していただけるような環境を整えることも理事長としての役割であると考えています。



本校は生徒が個々に選べる学習環境を提供している
(提供：つくば開成高等学校)

■ キャリア研究で視野を広げる

生徒が「どのような想いを実現していきたいか」「将来どのような仕事に就きたいか」を発見するためには、実際に現場へ出て「本物に触れる→感じる→考える」を繰り返すことが重要です。

そこで、本校では生徒一人ひとりの想いや状況に合わせて、個別にインターンシップ・ボランティアプログラムを作成しています。

生徒たちは裁判所や病院、工場などの職場見学をはじめ、農業、伝統工芸、大工などの職業体験、大学や専門学校のオープンキャンパスへの参加などを通して社会とつながることで、どんどん自分の世界を広げています。

さらに、生徒が主軸となり、国内修学旅行や文化祭、運動会などの定期行事を企画している学校もあります。生徒たちには、同じ場所、同じ時間を過ごした友人たちと数多くの思い出を作ってほしいと願っています。



様々な活動内容を説明する糸賀理事長(左)

生徒の進路状況についてお聞かせください。

■ 国公立医学部の合格者などを多数輩出

「通信制高校」と聞くと、進学率はあまり期待できないのではないかとと思われるかもしれません。

しかし、本校の生徒は国立大学医学部をはじめ、東北大学、横浜国立大学、筑波大学などの国公立大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学などの有名私立大学に多くの生徒が合格しています。

大学入試は全教科で挑まなければならないということはありません。特定教科だけで受験できる大学やTOEICでの高い成績、小論文など得意分野のみで受験できるAO入試という方法もあります。

転入前の学校で不登校だったある生徒は、本校卒業後、イギリスの大学に留学して生物学を学び、日本の大学の医学部に編入することができました。進路実現の道は1つではないのです。

全日制の高校では、全教科をまんべんなく勉強しますが、本校は生徒の興味・関心、そして将来の夢に合わせた「自分だけの学習カリキュラム」を計画することができます。そのため、生徒はストレスなく学習を続けることができるのです。

■ 生徒の夢の実現を後押しする

通信制高校には芸能人やスポーツ選手、芸術家などすでに自分の道を決め、忙しい合間を縫って通学し続ける生徒も多くいます。本校にもゴルフやサッカーなどで全国を飛び回り、家に戻った時に登校したり、オーストリアのクラシックバレエ団に所属しながら、メールでレポートを送信してくるなど様々な高校生活を送っています。

本校の教員が相談を受けている中学生で整数論ゼータ関数に興味をもった生徒がいます。国内の研究書籍の大半を読破し、著者との質問メールのやり取りがきっかけで、昨年11月に沖縄での論文発表に参加しました。不登校であった生徒が一人で沖縄に行き、さらには英語で発表したことに、保護者を含め大人たちが驚いています。本校入学後の成長が楽しみな一人です。

■「将来使える英語力」を育てる

現在、英語の需要はますます伸びています。このニーズに対応するため、本校は生徒たちを最大限サポートする体制を整えています。

例えば、オリジナルテキストを用意したり、メディア教材を導入したり、生徒が日本人講師とネイティブ講師の授業を交互に受けられる学習体制も整えています。沖縄校と柏分校には外国人講師が常駐しています。

また、生徒は実用英語技能検定(英検)、TOEIC、TOEIC Bridge、GTEC for studentsの中から、年間4回まで無料で受験することもできます。

本校の卒業生で、日本語、英語、台湾語の3ヶ国語に長けた方が、23歳の時、東南アジアに進出する日本の商社から年収700万円を超える初任給を提示されたと聞いた時は、大変誇らしい気持ちになりました。

「生徒に伝えたいこと」をお聞かせください。

■若い頃の経験は「人生の宝」になる

近年の教育・社会問題として「不登校」や「いじめ」「引きこもり」「学力不振」などの問題が浮上しています。本校の門を叩く生徒の8割も、他校で一度挫折を味わった転編入生たちです。

16歳前後で経験した「たった一度の失敗」を引きずり、その後の人生までも台無しにする必要は全くありません。私は彼らの「生きる力」を復活させたいという思いで「今、焦ることはありません。本校で安心して、ゆっくり自分らしい道を模索してください」と伝えています。

また、本校の生徒には、若い頃にしかできないことを経験したり、多くの人に出会ってほしいと願っています。若い頃の経験は、必ず「人生の宝」になります。

それは、私自身がフリーター時代、日本をはじめ海外など多くの場所を巡ったり、様々な経験を持つ人たちに出会ったり、地域の食や多様な文化など多くのものに触れた経験が、今最も役立っていると感じているからです。



様々な夢を生み出す糸賀理事長のアイディアシート

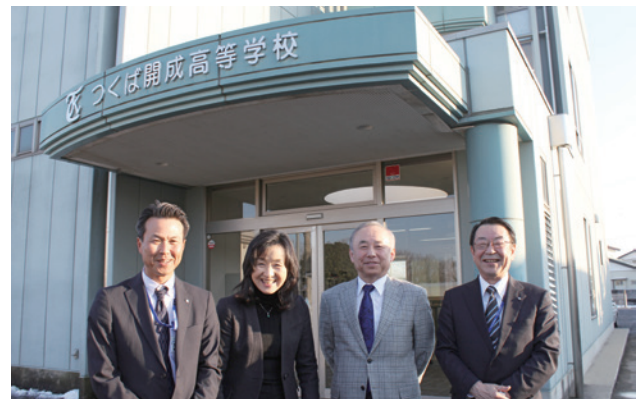
最後に、糸賀理事長の夢をお聞かせください。

■「アイディア」と「実行力」で業界を牽引

私は、通信制高校に通う生徒が「通信制高校卒業です」と堂々と胸を張って言えるような社会になってほしいと願っています。

社会や時代の変化を見て、これまで様々な事業を展開してきました。新しい事業を立ち上げる際、その1歩、2歩先まで見通すため、時に、時代を先取りし過ぎてしまったこともあります。

全ての事に共通しますが、誰かの後追いではなく、最初に取り組みからこそ価値があるのです。今後も「アイディア」と「実行力」で、生徒が満足した学校生活を送り、社会の一員として自立できる学校づくりを進めて参ります。



糸賀理事長（中央右）、糸賀事務局長（中央左）
牛久支店 益子支店長（左）と聞き手・藤咲耕一

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせ頂きまして、誠にありがとうございました。

御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。

■文責・写真：筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ